

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の基、グループホームとしての理念がある。職員は念頭に置いて実践できるように努力をしている。	法人の3つの理念を基にホーム独自の「利用者の尊厳を守る」、「安心して過ごしやすい」、「地域の方が来やすい」をキーワードにした理念があり、玄関に掲示し、申し送りやスタッフ会議で理念に基づいたケアに近づくように検討している。また、尊厳に関して法人の接遇研修などでスタッフの意識を高めている。利用者に対して不適切な声掛け等があった時は、管理者がその場で注意するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	6/10の敬老園祭には、地域の方に呼び掛け交流をして、グループホームの見学もして頂いた。また、学校行事(運動会・音楽会)にも参加させて頂いている。	法人として自治会に加入し、区費も納入している。地区の文化祭に利用者と学生と一緒に作成した作品を出品したり、また、小学校の運動会や音楽会に参加したり、中学生と交流したりしている。ボランティアの来訪も盛んで、体操ボランティア、家族マッサージボランティア、外出ボランティア、大衆演劇などと交流している。にしうち敬老園として実施される夏祭りには地域の方に参加を呼び掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	にしうち敬老園としては要請が無いので今のところ実施していない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や、活動報告を行い、推進委員の方々には、意見を頂いている。(年6回予定)5/24、6/10、8/29実施。	家族代表、自治会長、民生委員、市職員、ホーム職員などが参加し、年6回開催している。利用者状況や活動報告、人事報告などを行い、参加者からは運営面や防災に関することなど、様々な意見をいただき活発なやり取りが行われている。また運営推進会議での議事録はファイルし、スタッフが内容を把握できるようにしている。6月の敬老園祭にはメンバーに参加していただき、ホームの様子を見ていただくと共に利用者との交流を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上田市高齢者支援担当者が運営推進委員である。会議開催時に、連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。行政の取り組みについても意見をいただいている。	市からデイサービスも含め「いきいきふれあいサロン」を実施してほしいとの要請があり、現在参画の方で検討中である。随時ボランティアセンターへ相談に行きボランティアの交渉をしている。介護認定調査では計画作成担当者が代行も行っている。3ヶ月に1回介護相談員が来訪し、気づきや利用者の訴えを職員へフィードバックしている。また敬老園祭にも参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施して、職員の意識を高めている。利用者の安全を考えながら、自由に行動できるよう配慮している。(9月予定)	法人内の身体拘束に関する研修やリスクマネジメント研修に参加し、職員の意識を高めている。身体的要因から転倒リスクのある利用者が若干名おり、家族にも説明し、了承のもとセンサーマットを使用している。現在外出傾向のある利用者はいないが、訴えがある利用者に対しては職員が傾聴することで落ち着かれている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を実施し、職員の意識や知識を高めている。職員は自分の行動を振り返り、高齢者虐待の徹底防止に努めている。(9月予定)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいる。必要時には連絡を取り、報告・連絡・相談をしている。権利擁護についても学ぶ機会を作っていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等を詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。質問には随時お答えして、安心していただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員が来園された際に1対1で話を聞いてもらっている。家族には面会時や電話、手紙などで利用者の状況を伝えている。出された意見、要望はスタッフ間で話し合い、速やかに対応に反映させている。	半数以上の利用者が自分の思いや意見を言葉で表出することができ、その都度傾聴し、可能な限り要望に沿うように対応し、言葉で思いを表出できない方には動作や仕草などから汲み取るようにしている。キーパーソンや親族の面会はおおよそ月に2～3回あり、またホームの敬老祭や誕生日会に参加する家族もあり、その際に状態を伝えたり、要望を聴いたりしている。毎月家族へ写真と共に手紙を送付したり、年賀状や暑中見舞いを出して利用者の状況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、各職員の意見を聞き、業務改善に努め、運営に反映させるようにしている。働きやすい職場環境を作れるようにしている。	毎月第2金曜日に法人のグループホーム部会とスタッフ会議とがあり、その場でスタッフの意見や要望を聴き、申し送りや連絡ノートで情報を共有している。スタッフは期初に目標を立て、自己評価を1ヶ月ごとに行い、3ヶ月ごとに上司と確認をしている。年1回、統括施設長との面談もあり、スタッフの意見を反映させる機会がある。8月にはストレスチェックを実施した。また外部研修や全国社協で発行している「福祉職員研修テキスト」を基に管理者が講師になって研修をするなど職員のスキルアップの機会が多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、1人1人に役割や分担を持ってもらっている。向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。必要に応じて勤務調整を行っている。職員ノートがあり各自が目標を持ち、管理者は定期的に評価をして、向上心につながるように配慮している。メンタルヘルスにも取り組んでいる。(ストレスチェック)		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人や同法人のグループホームと相互訪問(交換研修)を行い、親睦を図っている。また、活動を通じて出てきた意見をケアに取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面談を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴いて、ケアに取り組めるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を踏まえて、初期の段階から困っている事を聴き、ご家族が安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ではまず本人、家族の話をしっかり聴いて、その時に必要な支援、ケアを決定している。職員間での情報の共有にも努め、必要とされるケアについて随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は傾聴、受容、共感の姿勢で、本人の思いや苦しみを受け止めている。家族のような、精神的に支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や変化等は、その都度家族に報告している。支援の方法、対応について意見をお聞きしている。家族との外出や面会も大切にして本人をいっしょに支える様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との面会を大切にしている。家族との外出も自由である。来客はいつでも歓迎して、いっしょに寛いで頂ける様に環境を作っている。	友人・知人の面会は随時あり、その際には日誌に記録を残すようにしている。年賀状や暑中見舞いのやり取りもある。またお盆や年末年始に帰省したり、外泊する利用者もいる。	

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように席の配慮をしている。その方それぞれの気持ちの良い居場所を作り配慮している。生活が楽しめる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。住み替え等で、GH契約終了の際には、利用者や家族をフォローして、必要な情報をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握出来るよう、日々関わりを持ち、探っている。ご本人の希望に沿った対応を心掛けている。困難な場合は本人の目線にたち、より良いケアに繋がる様に努めている。	「家事と一緒にやりたい」、「洗濯物たたみがしたい」など、日常的な希望にはすぐに対応し、利用者に行ってもらっている。その他利用者の生活歴や嗜好、動作や仕草などから本人の体調や希望を汲み取り、極力要望に沿うようにしている。また汲み上げた要望は申し送りや連絡ノートにて職員間で情報を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。今まで関わりのあった機関などにも情報の提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。体調の変化のある方については細かく情報を伝えている。それぞれの方の現状の把握に努め、その現状に対する支援の仕方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	スタッフは1～2名の利用者を担当し、計画作成担当者を中心に3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。また毎月の部会にてモニタリングを行い、利用者の身体的・精神的な変化が見られた場合には、その都度見直しをしている。見直し時には家族や本人の希望、申し送りや連絡ノートからの情報を反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も個別記録に残し、その場になかった職員にも情報が伝わるように努め、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。連絡ノートを作成してその都度、迅速に対応出来るようにしている。		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望には、可能な限り対応している。併設のデイサービスの協力のもと、希望者には行事やレクリエーションに参加して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	研修ボランティアや学生ボランティアを受け入れ、利用者との交流を図っている。地域やOBボランティアの協力で、外出もしている。豊かな生活が送れる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個別に記録と共に保管し、皆で共有している。	ほとんどの利用者は家族が希望され、ホームの提携医を利用されているが、他の病院をかかりつけ医としていたり、分野によっては他の診療科を受診される方もいる。定期受診は家族対応であるが、緊急時にはスタッフが付き添い、受診後は管理者からキーパーソンへ報告するようにしている。提携医の往診は月1回、訪問看護師の来訪が月に3回あり、緊急時には管理者から訪問看護師へ連絡し、訪問看護師から医師に相談するという連携体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の日常管理に努め、必要に応じて訪問看護師に相談し、医療との連携を図っている。迅速に対応できる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、できるだけ早期に退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	28年11月に看取りを行った。約1ヶ月前よりターミナル対応で、主治医・訪問看護師・家族・GH管理者と話し合い、方向性を決定した。個人の医療保険で訪看と契約し、細かいケアに入ってもらった。職員間でも情報を共有し、穏やかに最期を迎えられるよう支援した。(入居時にも看取り指針の説明をしている)	重要事項説明書内に「重度化対応及び終末期ケア指針」があり、利用開始時や状態の変化時には説明をしている。昨年11月に看取りを行い、家族や他職種と連携し、方向性を決定後書面に残し、職員間でも情報を共有しながら、共通の認識を持って看取り支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救命救急の勉強会を実施し、訓練を行っている。		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るように努めている。H28. 9/20に実際に避難した。(大雨が続いたため)	年2回デイサービスと合同で防災訓練を行い、利用者が車に乗るところまで実施している。夜間想定では連絡網を使用して行った。毎月第3金曜日を「防災の日」と定め、防災委員を中心に通報訓練や設備確認などを実施している。通報訓練には地元の消防団が参加している。ホームの1階部分には食料品や介護用品の備蓄もあり、万が一の場合には自治会長や民生委員、地元消防団が駆けつけるようになっていた。昨年、9月、台風による大雨で同じ法人の他施設へ実際に避難し、日頃の訓練が活かされた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りを損ねない配慮した上での関わり(言葉使いや態度)を大切にしている。集団生活の中でプライバシーに関しては絶対に守られているとは言えない所がある。	人権に関する法人の基礎研修や毎月開催されるスタッフ会議などで人権意識を高めている。現在異性介助に対しての拒否はないが、今後希望される場合は提供は可能である。不適切な対応になりそうな時など管理者が随時注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作り心掛けています。利用者が自己決定できるような(選択肢のある)声掛けをするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のそれぞれのペースに沿った支援を心掛けていますが、業務遂行のため、ある程度(食事、排泄、入浴等)は職員側のペースになってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、外部の理髪店が来園。行事、外出、通院などは、ご本人の要望で服装を決定している。化粧や装飾品も使用し、その方らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれに出来る事(野菜の皮むき等)を行ってもらっている。好みや、調理の仕方なども相談しながら食事作りをしている。旬の食材も取り入れて、季節を感じてもらえるように配慮している。	利用者の咀嚼や嚥下の状況に合わせて、一口大にカットしたり、盛り付けたりしている。その内の若干の方が刻み・とりみである。また介助が必要な方もいる。献立は法人の栄養士が作成し、利用者の希望や季節によってアレンジすることもあり、利用者の誕生日には本人の希望を取り入れたメニューを提供している。下ごしらえや配膳など、できる方は一緒に、ホットケーキ作りや焼きそば作り、梅漬けなども行っている。訪問日は1汁3菜のメニューで利用者が漬けた梅漬けも出ており、「おいしい」と言って食べていた。	

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えて、季節の食材をメニューに取り入れるなど、嗜好にも配慮している。水分量も確保出来るように、ムセのある方にはトロミ剤を使って対応している。水分量も記録し、把握している。栄養補助食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外してケアをさせて頂き、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要性に応じ、排泄チェック表を作成し、そのパターンに合わせて声掛け、誘導を行っている。パッドについてもその方に合った物を検討し、経済的に無駄のないようにしている。	若干名の方が自立しており、他の方は一部介助である。また、夜間のみポータブルを使用している方もいる。排泄チェック表や利用者の表情、状態、パターンに合わせて排泄の声掛けや誘導をしている。また排泄用品の使い分けにも気を配り、極力本人や家族に負担のないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食事メニューを工夫している。(水分や繊維質を多くとる)下剤、整腸剤は訪看と医師に相談をして、その方にあったコントロールが出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をしたり、家族の協力を得るなどして対応している。ターミナルケアの方はDSの協力もあり、チェア浴を実施した。	基本的に週2回の入浴となっている。利用者のほとんどの方が何らかの介助が必要で、状態に合わせて支援をしている。またホームへ入居間もない頃は入浴拒否をされる方がおり、声掛けの工夫や無理強いをしないようにしたら徐々に入浴できるようになったという。24時間温泉かけ流しの湯でスキントラブルも少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方が出来る支援に努めている。寝具等にも気を使い、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬の詳細のファイルを作り、内容を全職員が把握している。また、変化等が見られる場合は随時記録をし、医療とスムーズな連携が図れるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を理解したうえで、利用者が充実した一日を過ごせるよう支援している。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。(料理・家事など)		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出が出来るようにしている。また車椅子等を使用し、歩行困難な方も外に出られるよう工夫している。また、家族やボランティアの協力もあり、定期的に外出をしている。GH周辺の散歩などもしている。	日常的には利用者の体調をみながらホーム周辺を散歩したり、隣接する通所介護施設の敷地内にある観音様へお参りをしている。年間の外出計画も立て、花見や紅葉を見に行ったりしている。今年の3月には音楽村の水仙まつり見学と法人 食堂で外食を行い、5月には丸子公園までドライブし、散策とお茶を楽しんだという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は金銭の管理をしている利用者はいない。日常生活に必要な物は家族や職員が購入している。商店が遠い事もあり、買い物をするといった機会もないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば電話を貸している。年賀状、葉書を出す方がおり、購入や投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に暮らせる環境作りに努めている。季節の装飾品、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。花も飾り季節を感じてもらえるようにしている。(居室にも)空調にも配慮している。窓からの眺望が良いので喜ばれている。	天井に梁がめぐらされ、日本家屋風の趣がある食堂はこじんまりとし、窓からは山々の景色が見渡せる。食堂横には小上がりの畳部屋があり、向かいの事務所前にはソファが2つ配置され、利用者がくつろいでいた。トイレは2つあり、中は広く、車いすが優に入ることのできる広さである。浴室は温泉かけ流しで入浴の度に温泉を楽しむことが出来る。共用部分の温度管理はエアコンと床暖房で行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。利用者それぞれにお気に入りの場所がある。(居間、日当たりの良い廊下、寛げるソファ等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を踏まえて、家族の協力もあり、利用者個々に合った居室作りに取り組んでいる。(以前から使用されている馴染みの家具や家族の写真等)	エアコン・クローゼット・ベッドは備え付けられており、春になると窓からは桜並木が見渡せるという。居室にはテレビや使い慣れたタンス、位牌や遺影などが置かれ、生活感を感じることが出来た。中には行事の写真が飾られていたり、お気に入りのぬいぐるみがベッドにある居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かりやすい表示をしている。バリアフリーで、廊下には手摺りを備え付け、余分な物は置かず安全に移動できるように配慮している。移動時にはご本人に理解できるように声掛けを行い、出来るだけ自力を活かせる様に支援している。		